

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」栗林南校		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 14日 ~ 令和7年 12月 24日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	令和7年 10月 14日 ~ 令和7年 12月 24日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 8日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員それぞれの個性の高さ	・それぞれの職員が自分自身の得意分野を活かしながら、支援・保護者様対応を行っている。	・今以上にそれぞれの得意分野を活かせる場面やイベントを行い、職員・利用者様・保護者様に満足いただけるような環境を作り上げていく。
2	職員の得意分野を活かした情報共有の豊富さ	・利用者様やご家族様の状況あった対応に対してのアイデアを出しながら支援・保護者様対応ができている。	・現状の環境を維持し続けると同時に、今後入社する可能性がある新入社員も環境に適応しやすいような職員同士の関係性を続けていく。
3	イベントの豊富さ	・他県の校舎とのZOOMを通した合同イベント、外部施設でのイベント、ハンドメイドイベント、女性利用者様での小集団イベント及び保護者様のママカフェ等の様々な分野でのイベントを行っている。	・今後は、他の放課後デイサービスや児童発達支援・就労継続支援事業所等との合同イベントも行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	それぞれの職員の得意不得意がハッキリしている事	・それぞれの得意分野がある事が強みではあるが、同時に得意分野以外の対応が難しいケースがある。適宜、対応できる職員がフォローしている。	・それぞれの得意分野の知識・技術を職員同士で教え合う勉強会の開催を検討している。
2	育児経験の少なさ	・若い職員が多い事・男性職員が多いこともあり、育児に関しての情報共有は、経験ではなく、知識のみでの共有になってしまふ。	・他校舎に育児経験が豊富な職員がいらっしゃる為、定期的に育児に関する実際の経験をお聞きするタイミングを設けていく。
3	関係機関との連携の少なさ	・関係機関との連携が、担当者会議・ケース会が基本となっており、学校や他事業所への訪問等の回数が少ない。	適宜、関係機関との連携や学校見学を行い、直接支援以外でも各利用者様へ働きかける。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」栗林南校
------	--------------------

公表日 2026年 2月 14日

利用児童数 51

回収数 30

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22	8	0	0	運動をするとしたらやや狭い気はします	スペースの拡張等は難しい為、定期的に外出イベントで公園に行く等の工夫を致します。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	27	1	1	1	職員さんが少ないと思います。	引き続き新規雇用を行っていきます。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になさ	23	5	0	2		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25	5	0	0		
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	27	3	0	0	子供の状態に対して臨機応変に対応していました	引き続き臨機応変に対応し、満足して過ごせるような環境を提供いたします。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	24	3	0	3		
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	28	2	0	0		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	26	1	0	3		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	26	4	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていますか。	24	6	0	0		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	4	13	8	特に必要としていない	引き続き満足にご利用いただけるように対応致します。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	29	0	0	1		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	29	1	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14	4	4	8		
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	24	6	0	0	支援員さんに状況を説明していくても、情報共有がされていなかった事があるので情報共有がなされると尚良いと思います。	今後は、情報共有に不備が無いように情報共有を徹底していきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25	4	1	0	希望すれば行われると思うが、今のところ特に希望していない	必要な人が必要な時にお話できるような環境を提供いたします。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	27	1	0	2		
	18	父母の云ひ古動ひ支援ひ、休憩者云ひ開催寺により、休憩者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	3	9	11	必要ない	引き続き満足にご利用いただけるように対応致します。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22	5	0	3		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28	1	0	1		

	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21	5	2	2		
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27	1	0	2		
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練	8	7	4	11		
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	5	3	18		
	25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19	4	0	7		
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	1	0	13		
満足度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	30	0	0	0		
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	25	4	1	0	好きな支援士の方とのやりとりを楽しみにしております。たまに文句を言ったりしますが、楽しんで通所しています。	引き続き楽しみながらご利用いただけるような環境を提供いたします。
	29 事業所の支援に満足していますか。	27	2	1	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」栗林南校	公表日	2026年2月14日	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2 3	・スペースがせまい。 ・静養室が狭い	・必要に応じて静養室で支援する・パーテーションを使用して分ける等の工夫をする。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2 3	・支援員が少ない。 ・あと+1の配置がほしい。	・引き続き採用には力を入れていく。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1 4	・出入り口に段差があつたり、トイレの設備が大人用の仕様で状況によっては調節が必要。	・幼児用の便座を使用する。 ・必要に応じて指導員が補助して教室内に誘導していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4 1	・適宜行っている。	・引き続きPDCAサイクルを行い、支援の質の向上を図る。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	・保護者様から聞いた話を共有している。	・引き続き保護者様からのお話をしっかりと聞きし、話がしやすい事業所で在り続ける。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	・外部評価を行っていない。	・最寄りの専門学校等と関わりを密にし、評価を行っていただく場面を設ける。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		
適切な支	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4 1	・原則個人であるが、担当職員同士で情報共有し、内容を調整することはある。	・引き続き情報共有しつつ支援内容を調整し、支援の質の向上を図っていく。

援 の 提 供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		・イベントの実施	・お子様の身になるイベントを開催し、楽しみながら来所できるような環境を維持していく。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	・必ずではないが、状況に応じて役割を決めることがある。	・引き続き状況・お子様の状態に合わせた役割を決めて支援していく。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	・必ずではないが、状況に応じて役割を決めることがある。 ・適宜行っている。	・引き続き状況・お子様の状態に合わせた役割を決めて支援していく。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5			
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		担当者会議やケース会議を通して情報共有を行っている。	・引き続き担当者会議、ケース会議を通して園との連携も密にしていく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	4	情報共有する機会がある利用者様がない	・今後は、情報共有が必要なお子様が利用した際に情報共有しつつ支援していく。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	2	3		
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	4		
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	3		
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		5		
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	1	4		
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		5		
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	1	・他地域の事業所とZOOMでやりとりするイベントを実施	・今後も他校舎とのイベント等を行い、地域との関わりを持ちながら支援の幅を広げていく。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5			
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		・高学年女性利用者様の集団イベントと同時にママカフェを開催している。 ・情報共有を行っている職員がいる。	・引き続き近い年齢のお子さんが楽しめるイベントやママカフェ等のご家族様が情報共有できる場を設けていく。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5			
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		・高学年女性利用者様の集団イベントと同時にママカフェを開催している。	・引き続き近い年齢のお子さんが楽しめるイベントやママカフェ等のご家族様が情報共有できる場を設けていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5			
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		・イベントの開催	・お子様の身になるイベントを開催し、楽しみながら来所できるような環境を維持していく。
非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		・アセスメントシートに記載していたいている。	・引き続きアセスメントシートの記載を徹底し、お子様一人一人の正しい情報を知った上で支援していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5			